

令和5年度夏季ゼミナール成果と課題

【日時】 令和5年8月17日（木） 9：00～（8：45入室受付）

【会場】 Cisco Webex Meeting によるオンラインミーティングで開催

【主催】 岐阜県小中学校教育研究会 小学校理科研究部会

【日程】

	受付	開会式	実践発表 5名	ご指導	休憩	講演会	閉会式
8:45	9:00	9:20		10:40	10:50	11:50	12:00

◆開会式（9：00～9：10）

- | | | | |
|---------|-------------|---------|-------|
| 1 開会の言葉 | 岐阜県小学校理科研究会 | 飛騨地区 理事 | 熊原 幹人 |
| 2 会長挨拶 | 岐阜県小学校理科研究会 | 会 長 | 浅野 竜也 |

◆実践発表およびご指導（9：15～11：00）

発表者及び発表テーマ ※お一人の発表時間は**20分ほど**（質疑応答を含む）

助言者：岐阜市立青山中学校 教頭 土田 牧也 [A分科会]、岐阜市立三里小学校 教頭 武藤 正典 [B分科会]

分科会	学校名	名 前	テーマ
A	高山市立高山北小学校	岩田 和馬	問題を主体的に解決する複線型の理科授業の在り方
	山県市立富岡小学校	林 真梨子	理科の見方・考え方を働かせ自分の考えを表現できる児童の育成 ～第6学年「月の形と太陽」の学習を通して～
	岐阜市立加納小学校	村山 嘉章	理科を学ぶことの意義や有用性を実感する理科学習 ～第5学年「流れる水のはたらき」の学習を通して～
B	岐阜市立市橋小学校	青木 一真	問題を科学的に解決し、分かりやすく表現する児童の育成 ～第5学年「台風と天気の変化」の学習を通して～
	各務原市立稲羽東小学校	伊東 美咲	目的意識をもち、主体的に問題追究する児童の育成
	高山市立高山北小学校	岩田 和馬	問題を主体的に解決する複線型の理科授業の在り方

◆講演会（10：50～11：50）

- | | | | |
|----------------|-------------|-------------|-------|
| 1 講師紹介 | 岐阜県小学校理科研究会 | 飛騨地区 理事 | 熊原 幹人 |
| 2 講演「科学からみた温泉」 | | 日本温泉地域学会 理事 | 古田 靖志 |

◆閉会式（11：50～12：00）

- | | | | |
|---------|--------------|-------|-------|
| 1 総括 | 岐阜聖徳学園大学教育学部 | 教 授 | 川上 紳一 |
| 2 閉会の言葉 | 岐阜県小学校理科研究会 | 副 会 長 | 堀部 昇 |
| 3 諸連絡 | 岐阜県小学校理科研究会 | 主 務 者 | 堀祐 太郎 |

<参加者（小理研受付）>

計：110名

実践発表者5名 指導者2名

岐阜地区63名 美濃地区4名 可茂地区10名 西濃地区12名 飛騨地区10名 東濃地区11人名

<実践発表について>

- 単元全体を見通して、児童の力をつける実践が参考になった。
- 経験の少ない自分にとって、勉強になることばかりだった。夏休み明けから取り入れられそうな事から少しずつ行っていきたい
- どのような子どもを育てたいかという願いを強くもって授業を構想していくことの大切さを改めて感じられた。
- 小集団対話を行うことで、全体交流を行う必要がなくなったというものがあつた。全体交流の必然を感じていないことがあつたため、共感でき、私の授業にも活かしていきたいと感じた。
- 3人の先生方のご実践から、「子どもたちが主体的に理科の見方・考え方を働かせながら、理科の楽しさを学ぶにはどうしたらよいのか」ということを追究された内容で、大変参考になった。
- 主体的に問題解決する学習にするためのヒントをいただくことができた。子どもの意識が途切れないように計画、指導をしていけるよう自身の実践も改善していきたいと思う。
- 主体的に学ぶための手立てや個別最適な学び、ICTの活用など今求められている授業について先生方の実践を知ることができ、大変勉強になった。
- ▲事前発表の際に、実践の成果だけではなく、実践の課題も明確にさせていただけるとよい。
- ▲分科会を移動したときに、途中参加になってしまったので、発表の開始時間を2つの分科会で合わせると、よりしっかりとお話を理解できると思った。
- ▲どちらか一方の実践発表に参加することになるため、発表資料は、皆様のものがあるとありがたい。

<講演会について>

- 温泉という日常生活に基づくお話を聞かせていただき、理科の授業で学ぶ内容とリンクさせて聞くことができた。普段の授業でも生かしていきたい。
- 日常生活につながる講演内容ですごくわかりやすかつた。普段の授業もこの講演のように日常生活につながることで理科を好きな児童を増やすことにつながると思った。
- 温泉について、なかなか詳しく知ることがなかつたので、貴重な機会となつた。温泉の濃度や、色の見え方など、いつも温泉に入っているときに考えない視点からお話を聞くことができたので、今度行く機会があれば、違う視点から見て入りたい。
- 温泉の色、pH、効能など様々あつて深い話だつた。まさに身の回りに理科は溢れているなと思つた。
- 温泉を科学的な視点でみると、とてもおもしろく、納得できることがたくさんあつた。まさに、子供たちにも、こんな風に生活と結び着けて考えられるような見方考え方をつける学びを仕組んでいくことが大切だと感じた。
- ▲大変専門的で学びの多い講演会だつた。資料なども参考にいただけたらありがたかつた。

<運営面に関わつて>

- 次年度について、「オンラインがよい80%、状況を考えたい14%、参集型がよい3%、ハイブリッドがよい3%」という結果になり、来年度以降もオンラインにしたいという希望が多かつた。
- 飛騨はどこへ行くにも物理的に遠いため、オンラインだと助かる。
- オンライン開催は自分の見たい分科会に自由に移動することができ、とても良い。
- 移動時間を考えると、オンラインという選択肢があるとよいと思いますが、発表者の方のやりがいに繋がるのは、参集型ではないかと思つます。
- ▲飛騨地区の開催なので、飛騨の方の発表がさらに増えるとよい。飛騨市、高山市、下呂市の市教研等の取り組みを知りたかつた。オンライン開催となつても地区開催の意味をさらに考えたい。
→地区での持ち回りでは、開催地である地区の先生方が主体となつて、企画・運営をする。